

関係構築が全て

マーク・S・モーリス (Mark S. Maurice)
AIAA副会長 (国際部門担当)
空軍科学研究所 (AFOSR) 国際部長



まず、以下述べることは個人的見解であり、米空軍、国防総省、または米国政府の公式な方針または見解を反映したものではないことを断っておく。

1952年に、空軍科学研究所

(AFOSR) が、米空軍の基礎研究投資を管理するために設立された。全く明白なことであるが、基礎研究とは、結局、通常、長期間後に、応用研究と技術開発の最適化を高める科学を根本的に理解することである。大部分の基礎研究は、純粋に科学に焦点を当て、多くの将来の潜在的な応用にではない。AFOSRによって支援される大部分の基礎研究は、大学によってなされる。その研究は、専門家による審査を受け、発表され、出版され、公開されて世界中で共有される。基礎研究は世界中で実施されるが、AFOSR支援の研究は、考えを共有し、互いに協力する世界中の科学者の交流によって著しく強化される。

この交流を促進するため、AFOSRは、ヨーロッパ航空宇宙研究開発事務所 (EOARD) を設立し、現在英国ロンドンに置いている。EOARDは、研究機会を見出し、海外ワークショップ

マーク・S・モーリス博士略歴

1982年デイトン大学 (University of Dayton) 機械工学学士、1986年同大学航空宇宙工学修士、1992年同大学航空宇宙工学博士 (Ph.D.)。

1980~1993年、オハイオ州ライト・パターソン空軍基地空軍研究所 (AFRL) 航空部門の航空機構部にて空洞及び回流水槽素子の設計、亜音速、超音速、極超音速施設のための非破壊検査の開発に従事。1993年、英国ロンドンの空軍科学研究所 (AFOSR) 支部であるヨーロッパ航空宇宙研究開発事務所 (EOARD) 航空宇宙部長に就任。その間、AFRLとヨーロッパ、アフリカ、中東、旧ソ連において同様の研究を行う人々との間の協力機会を探る科学連絡窓口として活動。1997年、航空機構、飛行管制、構造体、飛行体サブシステム及び多角的総合技術における技術協力を開発・実行するために航空部門の主任サイエンティスト助手として2年間の任務要請により AFRL に復帰。

現在、ヴァージニア州アーリントンの空軍科学研究所 (AFOSR) 国際部長。この局はロンドン、東京、サンチャゴの AFSOR 支部とともに、AFRL に利する世界クラスの基礎研究を見出し、米国内の AFOSR 予算支援研究者と世界中の研究者との間の協力関係を構築するための連携を実施している。

モーリス博士は、専門技術者の免許 (licensed Professional Engineer) を有し、空軍 Exemplary Civilian Service Award を受賞している。また、AIAA Associate Fellow。現在、AIAA 理事会国際部門担当副会長、並びに、AIAA 国際活動委員会委員長。

ブや会議を支援し、海外の研究補助金を後援し、海外科学者とその米国対応者とを結びつけるようにする。オフィスが1952年に設立されたとき、鉄のカーテンが堅固に存在していた。したがって、EOARDのほとんどの活動は、冷戦のために、西ヨーロッパとイスラエルに限定された。それにもかかわらず、1960年代初期までに、EOARDはその責任（AOR）分野の中で、450項目以上の研究補助金を管理した。

文化的に類似である緊密な同盟国と協働することは難しくはない。空軍の研究者としての私の最初の10年である1980年代を通して、EOARDのレポートは広く配布され、我々の共通の味方が誰であるか、我々の潜在的敵が誰であるかはっきり分かる環境で科学的な協同機会を数え切れなくらい提供した。

1990年代初期までに、世界は異なる場所となった。まずはじめに、EOARDは東欧で、そして、旧ソビエト連邦（FSU）で科学的に優れた才能に可能な限り接近を図った。同時に、AFOSRは、科学技術がかなりのペースで成長しているアジア・オーストラリア地域での協同を増やすために日本の東京に、アジア航空宇宙研究開発事務所（AOARD）を開設した。

異なる文化・経済・政治を有する世界の2つの非常に異なった地域から一つの教訓を得た。それは関係構築が全てであるということである。

鉄のカーテンの崩壊は、基礎研究には政治的な境界がないということを証明した。かつて西ヨーロッパにだけ向けられていたEOARDの資源は、今や2つの海外事業所間でほとんど世界中に広げられた。そして、EOARDには、東欧およびFSUの科学者を米国の空軍研究所を訪問するために送れという要請が殺到し、米国の科学者が東欧およびFSUの研究施設を訪問するようとの誘いが殺到した。緊密な個人的友好が急速に進展したので、冷戦はなかったかのようにだった。AFOSRの援助リストにこの新しく利用できる科学を組み入れることに関して、大きな文化的相違は、経済的必要性によって克服された。東欧とFSUの通貨のほとんどは急速なインフレに陥った。そして、それらの国の研究機関への政府資金提供は実質で急速に落ちていた。したがって、多くの機関の存続は、外国資金の開発に依存していた。信じられないことに、これらの機関はほとんどすぐに西側の契約と商習慣に適応することができ、世界中の他のものと同様に、EOARDから補助金と契約を得た。当時、EOARDが対処したほんの2、3の障害は、英語での通信と報告に際し電話とファックス・システム間の接続がうまくいかなかったこと、研究提案及び会議報告の内容と成果の大きな相違、銀行業務システムと米政府の国際契約の法律用語の不適合性などであった。挑戦とはいえ、友好は忍耐に代わり、それから開発された無数の関係は、今日も存在し続けている。ロシアのセント・ピーターズバーグでの最近のロシア/AFOSRワークショップで、モスクワから出席した研究者は、15年前、少額のEOARD補助金によって彼の研究チームの人々に所属機関からの30ドル/月の支払に加えて100ドル/月を支払うことができたと言明した。したがって、彼はEOARDが彼の研究所を救い、彼のスタッフを確保できたと信じている。今日、EOARDの補助金により彼のチームの各人に、所属機関からの給料と比較して実際には非常に低い、100ドル/月を払っている（モスクワは、現在世界で最も高価な都市として東京より高位にある）。それでも、

彼のチームは、米国の友人や対応する人に会い続けて非常に満足している。彼らは考えを共有し、共同で働き、長い間一緒に出版を続けているようである。

アジアでは、物語は非常に異なるが、結果は同様である。AOARDは1992年に設立された。しかし、当時の東欧及びFSUと違って、アジアのかなりの先進国は単にお金のためにAOARDの少額の研究補助金には魅力を感じなかった。したがって、数年の間、AOARDはアジアでの関係を築くことに取り組んだ。活動の援助リストの増え方は非常にゆっくりしたものであった。その後、2000年頃、AOARDは、共有の研究補助金を通して長期間にわたり協同を繰り返し、定期的に米国とアジアの研究者が協同するワークショップとプロジェクトを支援することがより速く緊密な関係を進展させ、非常に成功するということを見出した。AOARD活動はゆっくり立ち上がったが、過去18年間にわたって指数的に活動は活発になり、そして、同事務所の全活動は現在EOARDの活動を上回っている。

したがって、世界中で世界に通用する研究に影響を及ぼす戦略は、単純である。それは、関係を築くことが全てであるということである。良好な関係を築くならば、自動的に国際的善意を造成し、協力を強化し、相互運用性を進め、技術的な驚きを避け、最も重要なことであるが、科学技術の達成を速めることであろう。

(翻訳：飯田尚志, JFSC特別顧問)